

神はすべての人が救われ、真理を悟ることを望んでおられる。(I テモテ2の4)

God wants everyone to be saved and reach full knowledge of the truth.

神は愛なり、と聖書に記されている。この無限に広がっている宇宙全体を創造した神がおられるということ、しかもそのような無限の力をもった神が、一人一人の悩みや苦しみを顧みてくださるといふ実にこまやかな愛のお方でもあるなどというようなことは、一般的な学問、知識、技術あるいは芸術やスポーツ、あるいはこの世の経験をいくら重ねても、だからといってわかるものではない。机の上を無限回転きまわっても、1センチ上にも届かないことと似ている。

その神は愛なるお方であるゆえに、すべての人が救われて真理を悟ることを願っておられる。それゆえに、私たちはただ救いを心から求め、キリストを信じるだけで救われるという誰にでも開かれた道が備えられた。

人間は昔からつねに自分の罪や、その罪に由来する人間同士の争い、分裂、あるいは病気や事故、自然災害…さまざまな問題で悩まされてきた。そうしたあらゆる種類の困難、苦しみから救いだすものなどあるのか、という問は、だれもが心の深いところで持っている問であり、最大の問題である。それらへの究極的な解決の道を示すのが真理である。

神はそうした私たちの深い魂の闇と迷いを知っておられ、すべての人を神のもとへと招いておられる。そして救いを受けて、神によって真理を悟るならば、人の本質、死とは何か、生きるとはどういうことか、心の中に生じるさまざまな悪しき思い—罪というのは除くことができるのか、この世界、宇宙の最終的な行き着く先はあるのかないのか、どういうところが究極的な到達点なのか…等々、身近な個人的な悩みや問題から、世界全体、宇宙全体にわたる広大な世界にかかわる問題の解決の道が明らかにされる。

人はその深いところまで見るなら、常に正義とか愛とかを誰にでもいつでも持てるなどという人はどこにもおらず、みな真理に従えない者でしかない。悪しき者とはだれか特定の人のごとでなく、真理そのものである神から見れば、みな人間は悪しき者にすぎない。それゆえ、人間の心から悪の力が滅ぼされて救われるよう、この世の雑多な知識や人間の考えを超えた神のお心、永遠的な真理を知るようにというのが神のお心なのである。

自然の世界—とくに夜空の星、青空、真っ白い雲、また谷川の水の流れや小鳥のさえずり等々は、そうした神の招きの象徴でもある。



背景には、大雪山系の主峰、旭岳が見えていますが、この付近から山頂への道はなく、ここは登山道からかなり離れた道のないところをだいぶ登った地点であるため、通常は人が入ることもなく、だれも気づかないところです。植物の分布を調べるために行ったところでこの群落が現れたのです。この写真の白い花は、チングルマ、赤い花はエゾノツガザクラです。チングルマは、このようにたくさん群生して白い花のじゅうたんのようになることがあります。中部地方から北海道にかけて、高山の雪渓周辺などに見られ、高さは10センチ程度の小低木。とても樹木のなかまとは思えないような小さな植物です。花の終わったあとの実の姿が、子供の風車に似ているので、チゴグルマ（稚児車）→チングルマとなったと言われています。

赤い花は、ツガという針葉樹（高さ30mもの大木になる）の葉に似ているのと、花が、桜のように赤くて美しいというところから、ツガザクラという名前があります。これは、高さは10～30cmという小さいものですが、これは、ドウダンツツジやアセビのような壺形の花をもったツツジの仲間です。エゾ（蝦夷）という言葉が名前に入っていることからわかりますが、この植物は、北海道のほかには、本州の一部の高山にしか見られないものです。

だれも見ることもない場所で、白色と赤い花が天然の花畑となって広がるさまは、いかなる汚れも感じさせるものなく、聖なる光景というべきもので、まさに神ご自身がはるかな昔に種まかれ、育てられたといえます。ここにたたずみ、それらを見つめると、清い音楽、御国からのメッセージが響いている感じを与えられました。